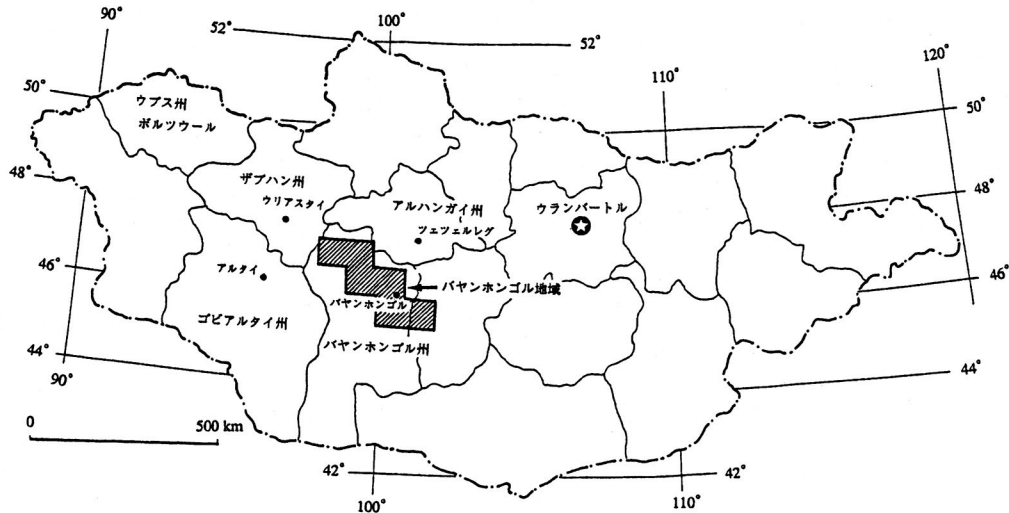


1:200,000 Digital Geological Map of Mongolia  
L-47-XXIII

20万分の1モンゴル数値地質図  
L-47-XXIII



日本の5万分の1地質図に相当するモンゴルの基本的地質図は20万分の1地質図である。この縮尺の地質図も含め、モンゴルの地質図のごく一部が旧ソ連によって印刷されたことがあるだけでモンゴル国内では過去に地質図が印刷・出版されたことがない。地質調査によって作成された地質図は、手書きの原図が1部存在するだけである。従って、ここに登録された地質図は、数値化された地質図として最初のものであると同時に、カラープリントとして多数の部数が発行されたものとしてもモンゴル最初のものである。

この地質図は、国際協力事業団（JICA）のプロジェクト方式技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所プロジェクト」（1994～1999）の中で、日本の地質調査所とモンゴル地質調査所及びそれに係わる多数の関係者の現地調査、資料収集の努力によって作られたものである。このプロジェクトでは、フィールド調査に係わる技術協力は、モンゴル中部のバヤンホンゴル地域において地質調査と鉱物資源探査を実施する中で行われた。その成果のひとつとしてとりまとめられたのが20万分の1数値化地質図6シートと6シートを総括した50万分の1数値化地質図である。ここに登録されたものはそのうちの1シート（L-47-XXIII）である。

L-47-XXIII

地質図L-47-XXIIIの南部には、ハンガイ山地南麓の延長に起伏の少ない平原が拡がり、沖・洪積層や古第三紀の玄武岩類と堆積岩類が広く分布している。地域の北側には、バイドラグ帯の変成岩類、ブルドゴル帯の堆積岩類が北西-南東方向に帯状配列し、さらにその北東端にバヤンホンゴル帯のオフィオライトが僅かに分布する。このほか、バイドラグ帯とブルドゴル帯には、白亜紀の陸成堆積岩類がかなりの範囲に渡って認められる。なお、地域の北部と南西端には、古生代花崗岩類が分布する。地質の詳細については、50万分の1モンゴル数値地質図（バヤンホンゴル地域）を参照のこと。